

コロサイ人に達する書

第一章 一 パウエル、神の旨に由りてイエススハリストスの使徒と爲れる者、及び兄弟ティモフェイは、二書してコロサイに在る聖徒、ハリストス イエススに於て信なる諸兄弟に達す。願はくは恩寵と平安とは、神我等の父及び主イエススハリストスより爾等に賜らんことを。三我等恒に爾等の爲に祈禱して、神我等の主イエススハリストスの父に感謝す。四是れ爾等がハリストス イエススに於ける信、及び衆聖徒に於ける愛、五即爾等が先に福音の眞の言の中に聞きし如く、天に爾等の爲に備へたる所に於ける望に由る者を聞きたればなり。六此の福音は爾等の中に存すること、全世界に於けるが如し、且果を結び、又蔓延すること、爾等の中に於て爾等が之を聞きて、神の恩寵を眞實に知りし日よりするが如し。七此れ爾等が我等の至愛なる同労者、爾等の爲にハリストスの忠信の役者たる、エパフラスより學びしが如し。八彼は爾等が神に縁る愛を我等に告げたり。九故に我等も之を聞きし日より、爾等の爲に絶えず祈禱して、爾等に、凡の智慧と神識とを以て、盡く神の旨を知ると得しめんことを求む、一〇爾等が神に宜しき所の如く行ひて、凡の事彼を悦ばせ、凡の善事に於て果を結び、神を知る知識に長じ、二其光榮の權能に循ひ凡の力に堅められて、凡の事喜びて、

忍耐恒忍せん爲なり。二我亦神父に感謝す、其我等を召して、諸聖徒と與に光明の業に分あらしむるを以てなり。一三彼は我等を黑暗の權より拯ひて、其至愛の子の國に遷せり、一四蓋我等彼に由りて、其血を以て、贖及び罪の赦を得たり。一五彼は見る可からざる神の像にして、萬物の先に生れたる者なり。一六蓋萬物は彼に由りて造られたり、天に在る者、地に在る者、見る可き者、見る可からざる者、或は寶座、或は主制、或は首領、或は權柄、一切彼を以て、且彼の爲に造られたり。一七彼は萬物より先にして、萬物は彼に由りて立つ。一八且彼は其體たる教會の首なり、彼は元始にして、死の中心に首めて生れたる者なり、其萬事に於て首たらん爲なり。一九蓋父の喜ぶ所は、彼の中に凡の充滿の存在し、二〇且彼に由りて、其十字架の血を以て、地に在る者をも天に在る者をも復和せしめて、彼に由りて、一切を己に和せしむるに在り。二一爾等素遠ざかりて、意念を以て惡しき行を以て敵たりし者をも、二二今彼の肉の體を以て、其死に由りて和せしめたり、爾等を、聖にして疵なく責めなき者として、己の前に立たしめん爲なり。二三爾等若し信の基に立ちて、動きなく止り、福音の望より移らず、必之を得ん、此の福音は即爾等の聞きし所、天下の悉くの受造物に傳へられし所、我パウエルが其役者と爲りし所の者なり。二四今我爾等の爲に受くる所の苦を喜び、且我が肉體に於て、ハリストスの體、即教會

の爲に、我に缺くる所のハリストスの患難を補ふ。二五 我は爾等の爲に我に託せられし神の定制に循ひて、教會の役者と爲れり、神の言、二六 即歴世歴代に隠され、今彼の聖徒に顯されたる奥義を編く傳へん爲なり。二七 神は此の聖徒に、異邦人の中に於て此の奥義の光榮の富の如何なるを、知らしめんと欲せり、是は即ハリストス爾等の中に在り、光榮の望なり。二八 我等彼を傳へて、凡の人を諭し、悉くの智慧を以て之を誨ふ、凡の人をハリストスイイスに於て、完全なる者として、立たしめん爲なり。二九 我此が爲に其大能を以て、我が衷に行爲する力に循ひて、勞苦勤勉するなり。

第二章 一 我爾等の爲、ラヲデイキヤとイエラポリとに居る者の爲、及び凡そ肉體に於て未だ我が面を覲ざりし者の爲に、如何に心勞するかを、爾等が知らんことを欲す。二 願はくは彼等の心は愛に和合せられて、完全なる穎悟の富を得、神父及びハリストスの奥義を知りて、慰を受けん事を、三 智慧と知識との一切の寶は、ハリストスの中に隠るるなり。四 我が此を言ふは、人が巧なる言を以て、爾等を惑はさざらん爲なり。五 蓋我身は偕に居らずと雖、神は爾等と偕に居りて喜び、爾等の秩序、及び爾等がハリストスに於ける信の堅きを見るなり。六 故に爾等が主ハリストスイイスを受けし如く、彼に在りて行へ、七 彼の中に根を深くし、堅く建てられ、

爾等が教へられし如く信に堅固になり、之に增長じて、感謝せよ。八 兄弟よ、慎め、人が、ハリストスに循はずして、人の遺傳に循ひ、世の元行に循ふ理學と空術とを以て、爾等を惑はさざらん爲なり。九 蓋神性の充滿は悉く實體を以てハリストスに居るなり。一〇 爾等も彼、即凡の首領權柄の首たる者に在りて、充滿せられたり。二 彼に在りて、爾等は亦手を以てせざる割禮を受けたらば、即肉身の罪の體を脱ぐ所のハリストスの割禮なり。一二 洗禮を以て、爾等は彼と偕に葬られて、亦彼を死より復活せしめし神の力を信するを以て、彼と偕に復活せり。一三 爾等曾て諸罪と身に割禮なきとに因りて死せし者を、神は彼と偕に生かして、我等に悉くの罪を赦し、一四 我等に對する禮儀の券、我等を攻むる者を抹し、彼は之を中間より取りて、十字架に釘せり。一五 首領權柄より力を奪ひて、彼は顯に之を辱しめ、十字架を以て彼等に勝てり。一六 是を以て食物、或は飲物、或は節期、或は新月、或は安息日の故に縁りて、人爾等を議す可からず、一七 此れ皆將來の者の影にして、實體はハリストスに在り。一八 何人も任意の謙遜と、天使等に奉事することとを以て、爾等を欺くべからず、彼等は未だ見ざる事を窺ひ、己の肉の智慧を以て妄に誇り一九 首に倚らず、蓋全體は首より、諸の節と維とに由りて、相助け相繋がりて、神の生長を以て長ずるなり。二〇 故に爾等、若しハリストスと偕に、世の

元行の爲に死せしならば、何ぞ世に居る者の如く禮儀に遵ふ、二一
即觸るる母れ、嘗むる母れ、捫る母れと、二三 此等皆用ゐるに因り
て朽つ、是れ人の誠と教とに遵ふなり、二三 此れ唯智慧の外表
にして任意の奉事と謙遜と、身を惜しまざること、及び肉體を養ふ
を重んぜざるにあり。

第三章 一故に爾等若しハリストスと偕に復活せしならば、上に在
る事を求めよ、即ハリストスが神の右に坐する處の事なり。二上
に在る事を以て念と爲せ、地に在る事を以てする勿れ。三蓋爾等
は死し爾等の生命はハリストスと偕に神の中に藏れたり。四爾等の
生命たるハリストスの現れん時、爾等も彼と偕に光榮の中に現れ
ん。五故に爾等の地に在る肢體を殺せ、即淫行、汚穢、邪侈、惡慾、
及び貪婪、即拜偶像是なり、六此等の爲に神の怒は悖逆の子に臨
む。七爾等も曩に、彼等の中に居りし時、之を行へり。八今は爾等
も忿怒、悲憾、怨恨、謗讟、爾等の口より出だす愧づべき言、一切之
を去れ、九互に謊を言ふ勿れ、蓋爾等舊き人と其行とを脱ぎ
て、一〇新なる人、即彼を造りし者の像に循ひて知識の改めら
るる者を衣たり。一一此にはエルリン人及びイウデヤ人、割禮及び
無割禮、夷狄及びスキフ、奴隸及び自主の者なし、即ハリストスは
一切なり、及び一切の中に在り。一二故に爾等神の選を蒙りし、聖

にして愛せらるる者として、慈悲、仁愛、謙遜、溫柔、恒忍を衣よ、
二三 若し互に責むべき事あらば、相恕し、相赦せ、ハリストスの爾等
を赦しし如く、爾等も此くの如くせよ、一四 凡そ此等の上に愛を衣
よ、是れ完備の總綱なり。一五 且神の平安は爾等の中に宰たるべ
し、爾等は一體に於て之に召されたり、爾等又恩に感ぜよ。一六 ハ
リストスの言は豊に爾等の中に居るべし、凡の智慧を以て相誨
へ、相倣め、聖詠と歌頌と屬神の詩賦とを以て、恩寵に由りて
爾等の心に和して、主を讚美せよ、一七 爾等が凡そ爲す所の事、
或は言、或は行、皆主イエススハリストスの名に因りて之を爲
し、彼に由りて神父に感謝せよ。一八 婦よ、爾等の夫に服へ、主
に在りて宜しき所の如し。一九 夫よ、爾等の婦を愛せよ、苛く之
を待ふ勿れ。二〇 子よ、凡の事に於て爾等の父母に順へ、蓋此
れ主の悦ぶ所なり。二一 父よ、爾等の子を怒らしむる勿れ、其氣
の餒えざらん爲なり。二二 僕よ、凡の事に於て、肉體に屬する爾等
の主に順へ、人の悦を取る者の如く、第目の前に於てするのみな
らず、乃樸直なる心を以て、神を畏れて勤めよ、二三 凡そ爾等の爲
す所は、心より之を爲し、人に於けるが如くせずして、主に於ける
が如くせよ、二四 爾等主より嗣業の報を受けんことを知ればなり、
蓋爾等は主ハリストスに勤む。二五 非義を行ふ者は、又非義の報
を受けん、主は偏視する所なし。

第四章 一 主なる者よ、義と公平とを以て僕に施せ、天には爾等にも主あることを知ればなり。二 祈禱に恒にして、之に儆醒し、且感謝せよ。三 亦我等の爲にも祈禱せよ、神が我等に言の門を開きて、ハリストスの奥義、我が縲綯に在る所以の者を言はしめん爲、四 我が之を言ふべきが如く、我をして之を顯さしめん爲なり。五 智慧を以て、目機に乗じて、外の者に行へ。六 爾等の言は恒に恩を以てし、鹽を調和すべし、爾等は何にか各人に答ふべきを知らん爲なり。七 至愛の兄弟、主に在りて忠信なる役者及び同勞者ティヒクは、我の事を悉く爾等に告げん。八 我特に此が爲に彼を爾等に遣せり、彼が爾等の事を知り、且爾等の心を慰めん爲なり。九 彼と偕に我等の忠信にして至愛なる兄弟オニシム、爾等の中の一人の者を遣せり、彼等は此の處の事を悉く爾等に告げん。一〇 我と偕に囚と爲れるアリストルフ、及びワルナワの甥マルコは爾等の安を問ふ、マルコの事に關しては、曾て命を受けたり、若し彼爾等に來らば、之を接げよ、一一 又イイス、稱してイウストと云ふ者は、爾等の安を問ふ、彼等は割禮を受けし者なり。唯彼等のみ、我と共に神の國の爲に勞して、我の慰と爲れり。一二 爾等の一人なるエパフラスイイス、ハリストスの僕は、爾等の安を問ふ、彼は恒に務めて爾等の爲に祈禱し、爾等が全備にして立ち、悉くの神の旨を全く守らんこ

とを請ふ。一三 我彼の爲に證す、彼は爾等及びラフデイキヤとイエラポリとに在る者の爲に甚熱心す。一四 至愛なる醫師ルカ、及びデイマス爾等の安を問ふ。一五 爾等ラフデイキヤに在る諸兄弟、及びニムファンと其家の教會とに安を問へ。一六 此の書、爾等之を讀みて後、ラフデイキヤの教會も之を讀まんことを致せ、ラフデイキヤよりする書は、爾等も之を讀め。一七 アルヒップに告げよ、爾等主に在りて受けし所の職を慎みて、之を盡くせと。一八 我パウエル手づから安を問ふ。我の縲綯を念へ。願はくは恩寵は爾衆と偕に在らんことを、「アミン」。